

三条市農業活性化プラン

平成24年度 実施状況中間報告

平成24年10月末現在

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

1 農産物の高付加価値化

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
良質堆肥の有効利用検討事務	農林課	<p>対 象:市内農家 内 容:良質堆肥による農産物の高付加価値化を図るため、完熟堆肥化センターで製造する堆肥を使用して栽培された作物の品質が上質であることが想定されるので適正な分量等の割合と作物の栽培状況を実証試験で確認する。 実施日:5月～10月 3品目 目 標:良質な堆肥の適正な使用分量等の割合を明らかにする。</p>	<p>良質堆肥製造を試行したが、途中機械設備の不具合が発生し、堆肥製造に至らなかったが、現在再度堆肥を製造中であり、年度末に試行すべく準備している。</p>		
ナノミストによる果実鮮度保持研究事業	農林課	<p>対 象:園芸農家ほか 内 容:果物等の鮮度を長期保持し、他産地と出荷時期を遅らせることで高付加価値化を図る。ナノミスト発生装置を活用し、これまでのルレクチエとシャインマスカットに加え、他の品目での活用の可能性について模索する。 実施日:11月～2月 目 標:実験で使用したシャインマスカット等を2月上旬に東京都で開催されたスーパーマーケット・トレードショーに出展する。 実証試験1品目</p>	<p>ルレクチエとシャインマスカットについて、最適に鮮度保持できるよう収穫時期や鮮度保持期間などを試行し、2月上旬に世田谷ものづくり学校においてシティーセールス事業で開催するイベントに出展するため準備中である。 また、このほか鮮度保持したシャインマスカットをクリスマスケーキ用に九州のお菓子店から受注を受けている。</p>		

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

2 販路開拓

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
荒川区・調布市・横浜市交流事業	農林課 営業戦略室 健康づくり課	対 象:荒川区・調布市・横浜市内小学校 内 容:安全・安心な三条産米等の理解を深め、荒川区・調布市・横浜市の学校給食に採用してもらい販路開拓を図るため、児童や保護者、教員を本市に招く稲刈農業体験と食育体験や出前授業などの交流事業を実施する。 実施期間:出前授業5校(5月～10月) 稲刈農業体験1校9月 目標値:販売数量5,500kg(H23は4,835kg)	出前授業は荒川区2校、調布市1校で開催し、稲刈収穫体験は荒川区1校で開催した。さらに荒川区1校で学校行事の際におにぎりを配布し保護者にもPR活動を実施した。この取組と販促活動により荒川区で新たに4校の採用が決定し、販売数量の達成できる見込みで推移している。 今後、例えば栄養士が集まる会合でのPRなどさらに採用校増に向け取組を実施していく。		
三条PR事業実行委員会	営業戦略室 地域経営課 商工課 農林課	対 象:首都圏、市外等 内 容:三条市固有の資源を発信し、市への誘客・定住を促進する事業の一環として、他地域において三条産農産物のPRを行い販路開拓につなげる。 実施期間:11月～3月 目標値:見本市への出店(H23は4回)	三条シティーセールス事業において12月開催の大阪箕面市農業祭にルレクチェを、また2月開催の世田谷ものづくり学校でのイベントにナノミスト発生装置により鮮度保持したシャインマスカットとルレクチェを出展予定で準備を進めている。		
中国向け新潟米輸出促進協議会事務	農林課	内 容:新潟県、新潟市、上越市、三条市、新潟県農業中央会、全国農業協同組合連合会新潟県本部で構成する中国向け新潟米輸出促進協議会が実施する事業に参画し、中国における新潟県産米や加工食品の販売拡大を図る。 実施期間:通年 目標:東日本大震災の影響で輸入停止措置となっていることから、解除後の協議会事業の再開	担当者会議を開催し情報交換を行ってきたが、中国の輸入停止措置が解除されないことから現地での試食宣伝会、レストラン関係者招へい、産地視察などを実施することが不可能な状況である。 輸入停止措置が解除され次第取組を実施する。		
スーパーマーケット・トレードショー出展	農林課 営業戦略室	対 象:食品スーパー流通業者など 内 容:ナノミスト発生機械を導入して鮮度保持を図った果物(ルレクチェ・シャインマスカット等)を流通業界に最新情報を発信するプロ向けの専門展に出展し、販路開拓の可能性を探る。 実施期間:2月 目標値:商談の成立	当初スーパーマーケットトレードショーに出展することとしていたが、世田谷ものづくり学校において三条シティーセールス事業のイベントに出展することとなったため、出展しないこととした。 なお、このほか鮮度保持したシャインマスカットをクリスマスケーキ用に九州のお菓子店から受注を受けている。		

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
市場ピッキングセンターと連携した農産物の流通	農林課	対 象:市内全農家 内 容:市内産農作物を市場に出荷してもらい、ピッキングセンターを経由して市内コンビニ等に農作物を流通させる。 実施日:6月～11月 目標値:1農業者の出現	農家に対しピッキングセンターの利用を促進し、結果として1軒の農家が利用することとなり、初期の目標を達成した。今後もさらに増加するよう活動する。		

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

3 人財育成

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
農業担い手確保	農林課	【経営資質向上研修】 対 象:市内農業者 内 容:優れた農業経営者の確保・育成 実施期間:通年 目標値:認定農業者数現況480→目標477	認定農業者数464経営体 経営資質向上研修は年度末を予定		
多様な担い手育成のための情報収集・提供・相談活動	農林課	【情報発信、相談活動】 対 象:市民 内 容:新規就農者、女性起業者の確保・育成 実施期間:通年 目標値:新規就農者1確保	新規就農者相談活動3経営体 新規就農者確保0経営体 女性起業者相談活動1経営体		
若い育児ママとの農業研修会	農林課	対 象:まるい今井邸に集う子育て中の母親 内 容:有機農業連絡協議会が講義実習指導 実施期間:6月～11月 目標値:講義1回 実習1回	当初予定していた実施期間では実施できなかったが、1月から3月に実施する予定で準備を進めている。		

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

4 地産地消

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
三条産米ブランド販路開拓	農林課 営業戦略室	対 象:全国 内 容:三条市とJAにいがた南蒲の協同事業として、三条市内で学校給食として採用している特別栽培米を全国に向けて販路開拓を図る目的でオリジナルパッケージを作成し販売する。 実施期間: 通年 目標値:良質な三条産米のPR	【H24年度販売状況(9月5日現在)】 ・化粧箱入(3個入/300g):1,600円/1セット 販売個数:18セット ・300g入:500円/1個 販売個数:358個 【取扱い場所】 JAにいがた南蒲、燕三条地場産業振興センター展示即売場、燕三条Wing、いい湯らてい、市内ホテル ほか		
地元農産物利用促進事業	農林課 健康づくり課	対 象:学校・保育所給食 内 容:給食に使用する地元農産物の積極的な利用拡大のために打合せ会等をする。 目標値:三条産使用量 カロリーベースで50%	地元農産物の使用計画に基づく打合せ、農産物の生育状況の確認、目合せ(規格検討)を各月で実施。 また、生産者との懇談会や、畑の視察などを行い、生産者と調理場との理解に努めた。		
しただ郷交流拠点検討委員会	農林課 営業戦略室	対 象:しただ交流拠点 内 容:建設支援 実施期間:通年 目標値:地元農業者等の意見を取り入れ集約した交流拠点として建設されること	各部会(農家レストラン検討部会・農産物直売所検討部会・農産物加工施設検討部会)において交流拠点づくりについて検討。9月末をもって「庭月庵悟空」の営業を終了し、改装工事に着手。		
しただ郷道の駅直売推進協議会	農林課 営業戦略室	対 象:三条市民(下田地区農業者等) 内 容:道の駅販売促進 実施期間:4月~11月 目標値:売り上げの向上	毎週土日に開催し、下田地域のPRと地産地消を推進した。 また、下田の特産品となり得る山菜類の安定供給を目指し、栽培指導の研修会を実施。(8月18日・9月28日の2回実施) その他、9月25日に直売所有志(4団体12名)により上越市への先進地視察を実施。		
安全安心でおいしい地元産農産物の購入の拡大サポートに関する事務(地産地消システム運用)	農林課	対 象:生産者、消費者等 内 容:既存の流通における三条産農産物の認知度を上げる取組を先行して行いながら、出荷量の増加と市民への安全・安心な地場農産物の安定供給を目指す。 実施期間:通年 目標値:市民へ三条農産物の安定供給	三条産の目印となるラベルシールを80万枚作成。生産者・小売店等に配布し三条産農産物に貼付して販売。(10月末現在において619千枚のラベルを配布。) また、健康マイレージ制度と連携し、ラベルシールのポイント化を実施。集めて応募してもらうことで年度末に景品を進呈する。		

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
地産地消推進店「三条まんま塾」委託事業	農林課 健康づくり課	対 象:地場農産物等を積極的に取り扱う市内の小売店及び飲食店等 内 容:認定基準に該当した地場農産物等の産地区分に応じて階級を付して、推進店として認定 実施日:随時 目標値:H24年度新規登録40店以上	H23の制度開始より110店舗を推進店として認定。 H24年9月に1店舗から認定辞退届出があり、10月末現在で109店舗の認定状況。 H24年度は4月～10月末まで23店舗を新規に認定を行った。		
地産地消フェア「三条まんま塾」委託事業	農林課 健康づくり課	対 象:市民 内 容:三条マルシェに地元飲食店と連携し、地場食材を使用した飲食物の販売を行い、地産地消をPRする 実施日:9月・10月(マルシェ) 目標値:2回開催	当初9月・10月のマルシェに合わせて2回開催を予定していたが、飲食物の販売(お通しサミット・給食レストラン)と直売市を分けずに同時開催することで地産地消の更なるPRが期待できることから、10月の大規模開催に一本化し、情報提供コーナーと併せて開催した。	○	給食レストランや推進店と連携した直売所を開催したことで、多くの市民に三条産農産物のPRができた。また、情報提供コーナーを設けたことも啓発の一躍を担った。 一方で、大きくなりすぎた会場により、地産地消フェアがマルシェの中の一出展と位置付けられてしまった感もあったが、飲食店と直売所を運営する生産者が連携することができたことは一定の成果があったと評価できる。

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

5 食育推進

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
小中学生の農業理解促進(学校教育田活用)	農林課	【学校教育田の実施】 対 象: 市内 22小学校 内 容: 協力農家と一緒に田植えから稲刈りまでの作業を体験し、農業や米に対する理解を深める。 実施日: 5月～11月 目標値: 農業や米に対する理解が深まった生徒が80%以上	市内小学校22校 面積103.3a この取組を通じ生徒からの農業等に対する理解は十分に深まった。	○	いずれの学校においても子供たちが自ら収穫体験等を実施することで食に対する感謝の気持ちや農業に対する理解が深まったとの感想が多数寄せられており、初期の目標を達成できたものとする。
食育推進体制の強化と、食育に対する啓発	健康づくり課	○保育所食育推進事業 ○学校食育推進事業 ○地域食育推進事業 ○食育意識啓発事業 ○地区組織活動の支援	(第二次食育推進計画に掲載)		
地場農産物を活用した食文化の継承(料理教室の実施)	農林課	対 象: 三条市民 内 容: 地場野菜の生産者が指導する料理教室と、試食を兼ねた意見交換会 実施日: 平成25年2月中～下旬 目 標: 参加者アンケートで「料理教室の趣旨を理解できた」、「参加してよかった」を選ぶ人が8割以上	実施予定 内容: 里いもを使用した料理の実習と、手早くできる本格的な漬け物の漬け方の紹介 実施日: 平成25年2月13日		

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

6 環境保全

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
環境保全型農業推進に関する事務	農林課	対 象： 全農業者 内 容： 環境保全型農業(3割・5割減々・有機)の取組み拡大 実施期間： 通年 目標値： 5割減々・有機栽培の取組み拡大	化学合成資材 3割低減栽培2,407ha(H23:2,363ha) 5割低減栽培524ha(H23:507ha) 有機栽培29ha(H23:30ha)	○	有機栽培は若干減少したものの、化学合成資材低減栽培の取組は増加しており、環境の保全や農業の品質向上に配慮した農業は定着しつつある。
環境教育・保全活動のサポート	農林課	対 象： 三条市民 内 容： 田んぼの生き物調査推進(まんま塾・農地水関係事業・戸別所得補償環境支払) 実施期間： 6月～8月 目標値： 250人参加	田んぼの生き物調査 大島 8月18日 74人 環境保全型農業直接支援事業 102.31ha 65人(実施予定) 参加者 計139人 田んぼの生き物調査の取組地区が減少となったことにより参加者数の減。		
良質堆肥の広報	農林課	対 象： クリーン三条(堆肥生産組合) 内 容： 堆肥のPR 実施期間： 通年 目標値： 活用農業者の拡大	堆肥のPRを実施してきたが農業者増につながっていない。		